

道徳科における効果的なICT活用について

〈道徳科の目標〉

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を**多面的**・**多角的**に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

☆道徳的諸価値についての理解とは…

- ・価値理解（これだけだときれいごとで終わってしまう）
- ・人間理解（毎時間、人間の弱さが出てくるようにする！）
- ・他者理解（ICTを活用することでスムーズに行うことができる！）

具体的には…

【ICT活用を対話に繋げる方法】

①中心発問後にJamboardを活用する

中心発問は、道徳的諸価値含んだ場面を**多面的**に問うことが多い。→発問後に意見が拡散する。それらを認め合い対話をしながら、考えをグルーピングしたり、そのグループにタイトルを付けたりする。

※他教科同様、個→グループ→個で考える時間を忘れずに！

テキストマイニングを職員室のclassroomに載せてあるので、活用してください！

②補助発問時に（生きた問いに）、心情メーターを活用する

補助発問は、道徳的価値を深く追求する発問。→拡散した考えを**多角的**な発問によって議論しながら収束に向かわせる。＝深める時は、対話を中心に行うことが大切。

- ・心情メーターをもとに、なぜそう考えたのか話し合う
- ・児童の心情メーターを見て、みんなと違う考えを拾い、議論のネタにする。

※心情メーターは、他の場面でも効果的に使えます！

心の数直線（熊本市教育センター）を道徳のclassroomに載せたので、活用してみてください！

【ICT活用で多様な考えに瞬時に触れる方法】

- ・自分の考えや振り返りをスライドやclassroomに記入する児童は、友だちの考えを自分の机上で見ることができる。＝いろいろな考えをその場ですぐに知ることができる。

- ・考えを広める場面・他の児童の意見を知る場面でICTを活用することが効果的。
- ・「考えを打ち込んで終わり」では意味がない。打ち込んだことを基に、共同編集しながら対話に繋げる。
- ・深める場面では、打ち込むことよりも対話しながら思考する時間を大切にする。
- ・ICT活用は目的ではなくねらい達成のための手段。これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことが必要！